九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告 : 第4巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

https://doi.org/10.15017/10571

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 4, pp.1-112, 2008-04. AQUA事務局
バージョン：
権利関係：

追悼

牟田耕一郎先生の死を悼む

牟田耕一郎先生は、2007 年 6 月 30 日に 51 歳で逝去された。異所性骨肉種による闘病生活は 11 ヶ月に及んだ。牟田先生は、学生時代の一時期に ODA 活動の一環であるカンボジアなどの国際医療貢献へ参加し、その縁でタイ人の奥様を娶られ、2 人の男子をもうけた。まさにアジア国際医療連携を具現化したような人生であった。AQUA の活動へは、2005 年 8 月から参加し、九州大学病態制御内科血液研究室チーフとして、アジアに多いサラセミア貧血や EB ウイルスによる胃腫瘍などの国際カンファレンスを遠隔医療ネットワークを用いて精力的に開催され、一分野を築かれた。更に、九州大学病院の初代の国際医療連携室長として 2006 年 9 月には「アジアの健康を考える会」を主催し、アジアのヘルスケア遠隔医療カンファレンスの先駆けとなった。インドネシアのイスラム大学医学部設立にも JBIC の一環として尽くされた。また、2006 年度からはタイのマヒドン大学との血液疾患交流事業の事務局として JSPS 資金を獲得し、さらに遠隔医療カンファレンスを推進した。しかしながら、アジアでは新興感染症や深刻な環境汚染による健康への影響、災害やテロなど厳しい状況が続いており、彼の叱咤激励が聞こえてくるようである。

牟田先生は残念ながら志半ばにして病に倒れられたが、彼の遺志は今も我々の心に有り、表面だけの国際交流ではなく心と心の交流を大切にする牟田流の国際交流は、これからも我々の方法であり、目標でもある。このことを我々の記憶に残し、おおらかに精力的にアジアの保健医療へ貢献することを誓いたい。心より冥福を祈る。

故牟田耕一郎先生。2006 年 9 月 15 日の慶尚大学との初めての遠隔医療カンファレンスにおける韓国側会場の moderator として。使節団としては団長でもあった。なおこの時、既に闘病生活に入っていた。

2008 年 3 月 17 日

九州大学病院医療情報部　中島直樹